

みなさんにエールを送る
福祉のしごと情報紙

YELL



宮古 小規模介護事業所
合同就職面談会



奥州 小規模介護事業所
合同研修会 Web開催



魅力発見バスツアー
盛岡エリア東コース



釜石 介護のしごと
再就職支援講座

エールは、介護施設・事業所にとってタイムリーで
役立つ情報をお届けするとともに、介護の職場で
働いている人・働きたい人を応援する情報紙です。

「人にあえる（会える）」
人と人をつなげること
（マッチング）が大好きな
“あえる”ちゃんも
応援しています！



※写真は令和2年度事業

vol.01

AUGUST

2021.08.01

P.2 Webによる合同研修会の開催レポート

P.4 事業所訪問レポート

「介護負担の軽減と介護の質の向上 ～福祉機器導入でかなえる職場環境づくり～」

P.6 福祉の職場で働く人にYELL

P.8 エールインフォメーション

Webによる合同研修会の開催レポート

岩手県社会福祉協議会・岩手県福祉人材センターでは、岩手県から委託された、介護人材マッチング支援事業の中で、小規模介護事業所「合同研修事業」を継続して実施しています。

不特定多数の方が一堂に集まるリスク、外部講師が施設に訪問するリスク、「密」を回避する行動が求められています。

こうしたことから、新型コロナウイルス感染症感染予防を図るため、「研修受講施設」と「講師」をWebで結んで研修会を数回実施しています。

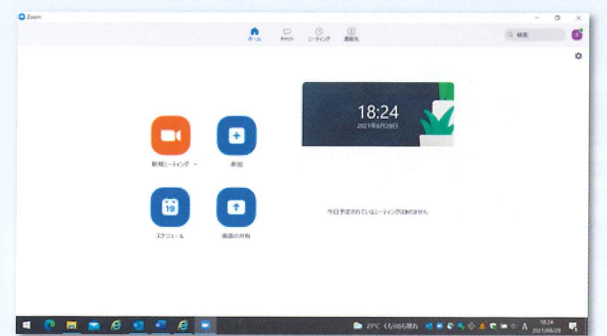
研修事業の担当者として、Web研修会は初めての開催で慣れないことから、実際の研修会開催に先立ち、「Zoom操作法について」講師をお招きして実習を受けました。

結論としては、講師からは「習う」より「慣れる」このアドバイスがあったとおり、回数を重ねるたびに上達してきた感があります。

また、Web会議を開催してきた先輩職員やパソコンに詳しい職員のアドバイスを受けながら、開催に向け、手探りで研修会を実施しました。



Zoom導入、主催者として研修会を開催



Web研修会を開催するに当たって利用するツールとして、私たちが選んだのは、Zoomでした。

まずは、Zoomのインストールから。ソフトウェアのダウンロードは、インターネットのサイトからダウンロードします。

次にメールアドレスと、パスワードを登録することで、準備は完了。

続いて、研修会や会議を主催・開催します。県社協・人材センターでは、Zoomの無料のサービスを利用しました。

Zoomの利用は、1対1の場合、時間制限は特にならないのですが、複数での会議や複数をつないでの研修等は、時間制限があり、基本的に40分経過すると制限がかかるようです。

通信を継続するには、改めて招待など、再接続することになります。

したがって、初めてのZoomによる研修会は、1対1、講師側がミーティングを主催する側としました。

次に、受講者側と接続するため、主催側は「招待」という作業をします。

1対1から1対2など

複数の方とのつながり方

1対2など複数の場合は、前述したとおり、40分間という時間制限がかかり、通信が切断されることを想定して準備して（再接続や再招待など）おくことで慌てなくて済むでしょう。

有料契約への移行について

有料契約を検討する場合について
研修会・会議などを主催することが多い場合は、有料契約に移行する検討も必要となるでしょう。

その場合の契約単位は、100単位（参加者が100回線まで）、200単位、300単位などがあるようで、契約期間は「年間契約」となります（取扱代理店や直接契約など契約形態も多数あるようです）。私たち岩手県福祉人材センターも現在、有料契約に向け準備中です。

有料契約に移行するメリットは、前述の40分間という時間制限を気にしなくて済むことです。

多数の回線をつなぐことで、研修機会を広げることや移動のリスク回避や時間短縮、一堂に会するデメリットの解消などがあります。

一方で、受信者、受講者には、様々な受信機器・機材があり、受講者や参加者側の画像が見られない、音声に問題があるなどの諸問題もあるかもしれません。

必要な機材

ノートパソコンやタブレットの多くには、内蔵カメラや内蔵スピーカーが付いています。

デスクトップパソコンや旧式ノートパソコンを使っている場合は、外付けのWebカメラ、会議用マイク・スピーカーなど、Web会議用の機器が、家電量販店やパソコンショップ、ネット通販などで販売されていますので参照の上、ご活用ください。

結論

初めは分からなかったものの、開催数が増えるにしたがって、Zoomの持つ便利なツールや機能がある程度使えるようになったものの、まだまだ、十分に使いこなせてはいないので、経験に勝る上達はないものとも感じています。コロナ禍での様々な生活様式の変容は、社会が変わるきっかけになりました。よりよい社会となりますよう祈ってやみません。



▲盛岡で講師がモニター越しに講義



▲web研修中の様子 県南の施設とZoomでつなぎ受講

介護負担の軽減と介護の質の向上

福祉機器導入でかなえる職場環境づくり



導入決定当時の施設長 岡崎純也さん

超高齢化社会が進み、我が国の高齢化率は世界一となりました。その高齢者の介護を担う介護現場での人材不足が深刻化する昨今、介護スタッフの身体的・精神的負担や腰痛などが問題視されています。そんな介護現場の救世主になり得る可能性を秘めているのが、「福祉機器・介護ロボット」です。

福祉機器の普及が進むことで期待できるメリットは、「介護者の身体的・精神的負担の軽減」や「介護現場における人員不足の解消や人件費の削減」などが挙げられます。従来の介護では、起床介助や移乗介助、入浴介助などにより、介護者の腰やひざに大きな負担がかかっていた。福祉機器を活用することで、そんな身体的な負担を軽減することができ、日々の介護業務を効率化できれば時間的にも余裕が生まれ、精神的負担の改善や介護の質の向上も期待できる。

「今は、あるのが当たり前と思うほど日常的に使っています。導入したことで受け入れる利用者さんの幅も広がりました。以前はご家族への説明の中で、重症化した場合に入浴が難しくなる場合もあると話さなければなりませんでした。今はそんな心配もありません。導入して3年以上経過しますが、まだメンテナンスの必要もないですし、本当に導入して良かったです」。

新たな課題と福祉機器への期待

現在は同法人の介護老人福祉施設ひまわりの施設長を務める岡崎さん。今抱えている課題を改善するために、新たに導入を考えている福祉機器があると言います。「男性の入所者も増えてきましたし、介護者は女性が多いのでどうしても体力面での負担が大きいです。スライドシートなども活用していますが、手順が多く時間がかかります。何か良いものはないかと相談し、提案されたのが、移乗サポートロボット Hug です」。Hug は、ベッドから車椅子、車椅子からお



▲株式会社FUJI
移乗サポートロボット Hug

事前準備や特別な装具不要
一人で立ち上がることが難しい方
に対して二人介助で行っていた移
乗・トイレ介助が介護スタッフ一人
で対応可能になる。

ます。また、これまで一人での介護が難しかった作業も、福祉機器を用いることで一人でも対応可能になるなど、人材不足が深刻化する介護現場における導入によるメリットは大きいと言えます。

しかし、実際は、福祉機器の普及はあまり進んでいないのが現状です。その理由としては、「導入コストの問題」「操作や安全面への不安」「設置場所の確保の問題」などが挙げられます。

今回は、現場のニーズから既存の浴室を改装し、リフト付きシャワーキャリーを導入した、社会福祉法人典人会 グループホーム「平（ひら）」の当時の施設長、岡崎純也さんに、導入に至るまでの経緯について伺いました。

「思い」をつないで導入を実現

「グループホーム開所から数年が経過し、入所者の中に浴室をまたぐ動作が難しくなった方が出てきました。そうすると、介護者の負担の増加や危険度も増すことになりました。でも、個浴は維持したい。浴槽につかるということはリラクゼーションにもつながるので、ゆつたりお湯につかっていたきたい。スリングを使った吊下げ式のリフトの存在は知っていましたが、家庭的な雰囲気を一番に考えている施設なので、それは避けられた。そこで、何か良いものはないかと福祉用具貸与業者の担当者に相談しました」。そして提案されたのが、「リフト付シャワーキャ

手洗いといった座位間の移乗動作や、脱衣場での立位保持をサポートするロボットです。」「先日、ベッドから車椅子への移乗が大変な方にデモ機を試していただきました。1週間ほど使ってみました。それまではリクライニング機能のある電動車椅子が使用だった方が、Hugを使うことで普通の車椅子が使用できるようになり、自走するまでになりました。自信を取り戻し、表情もみるみる明るくなっていき、その変化に私たちも驚かされました。実際に導入できれば介護者の負担軽減だけでなく、利用者の自立支援にもつながるのではないかと期待しています」。

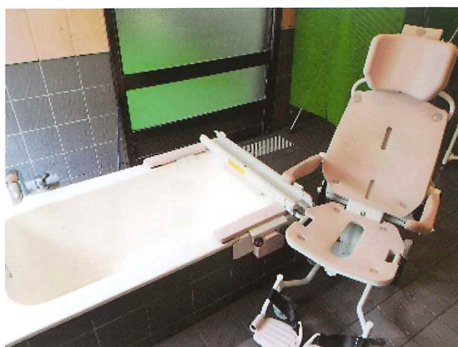
もう一つ注目しているのが「見守り支援システム」だと言います。例えば、「眠りSCAN」はマットレスや敷布団の下に敷いて体動（寝返り、呼吸、心拍など）を検出、利用者の睡眠・覚醒 起き上がり・離床などを端末にリアルタイムで表示する非装着型のセンサーです。測定結果を活用して利用者の状態に合わせたタイムリーな個別ケアの提供が期待できます。ベッド上の利用者の状態をリアルタイムでモニタリングできるため、利用者全員をスタッフルームから見守りすることが可能になります。

「通信環境の整備など実際の導入までにクリアしなければならぬ課題は山積みですが、見守り支援システムを導入できれば、特に夜勤帯の精神的な負担軽減につながりますし、データを個別ケアやスタッフ間の情報共有にも生かせれば、ケア会議の質も向上するのではないのでしょうか」。

最後に、今後の福祉機器・介護ロボットに期待することをお聞きました。

「職員の負担軽減と介護の質の向上はどちらも重要、2本柱だと考えます。福祉機器を活用することで、介護負担が軽減することが期待できます。介護負担が軽減すれば、介護者に余裕が生まれ、笑顔が増え

▼株式会社うら
リフト付きシャワーキャリー
LS-310
工事不要でレールを設置するだけで使用でき、入浴リフトシートの高さを介助しやすい高さに電動で昇降調整できる。



リー」でした。吊り下げることなく入浴ができるシートスライド式で操作も簡単。シートの高さを介助しやすい高さに電動で昇降できるため、移乗・洗体を楽な姿勢で行えます。浴槽に設置したレールは収納できるため、リフトを使わない方も同じ浴槽を使える点も選定の理由だったそうです。

しかし、現場の介護員の中には、導入することでのこれまでのやり方を変えることへの不安を感じた方がいたことも事実でした。その現場の不安をどのように解消したのでしょいか。

「とにかく、今、大変でしょ？ これを使えば楽に安全に介助できるのだから、使ってみよう」と、訴えましたね。」「当時は思い出して笑顔で話す岡崎さん。現場の介護負担を軽減したいという思いが現場にも伝わり、導入が決まりました。」「でも、その後が大変だった」と続けて話します。

「実は、導入を決めた後に人事異動があつて、一番大変な助成金の申請手続は後任の施設長に一任することになったのです。助成金の申請は初めてのことで、聞き慣れない言葉も多く、その都度問合せをしながら、それが、介護の質の向上につながり、利用者の満足度アップにつながると信じています。しかし、我々は福祉機器について知らないことも多いですし、種類が多すぎてどれを選ばよいかの分かりません。ですので、価値観を共有し、こちらのニーズをくみ取って最適な機器を提案してくれる貸与業者の担当者さんとの信頼関係がとても重要です。それと、どうしても費用負担の問題は大きい。活用しやすい助成金などの制度があれば、積極的に活用して介護現場の環境整備に努めていきたいです」。

岩手県では、介護従事者が継続して就労するための環境整備を図るため、身体的負担の軽減や業務の効率化に資する介護ロボット等を導入する経費に対し助成金を交付する「介護ロボット等導入支援事業」を準備中です。

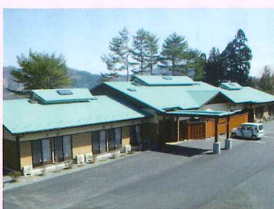
詳細は決定次第、岩手県ホームページ等でお知らせされる予定です。

社会福祉法人 典人会

- ◆設立：平成5年7月
- ◆運営施設：17施設（介護老人福祉施設3施設、グループホーム3施設、小規模多機能ホーム3施設、デイサービスセンター4施設、ショートステイ2施設、居宅介護支援事業所1施設、在宅介護支援センター1施設）
- ◆住所：大船渡市大船渡町字山馬越196番地
- ◆電話：0192-27-8605
- ◆ホームページ：http://www.tenjinkai.com



老人介護福祉施設ひまわり



グループホーム平

福祉・介護の仕事に携わる人材の確保が難しくなっている中、介護の職場と求職者との橋渡し役を担っているのが福祉人材センターのキャリア支援員です。求職者に対し、必要に応じて、応募の前に施設見学・職場体験の機会をつくる等、きめ細かな支援を行っています。キャリア支援員が関わり、介護の職場に就職した方や異業種から転職した方がたくさんいます。このコーナーでは、希望がかなって今いきいきと働いている方を紹介します。

福祉の現場で働く人に

YELL

ガンバレ!!



福祉・介護の仕事を選んだ理由
(きっかけ、地元就職の理由など)

高齢者介護に興味があり、求職中に福祉人材センターの定期相談会へ参加し相談しました。

職業訓練校で介護の基礎を学び、その後、福祉人材センターのキャリア支援員の方と施設を同行見学させていただき、訪問先の施設でいろいろな話をお聞きしながら疑問に感じたことなど直接、質問することができました。キャリア支援員の方に相談をしながら様々なアドバイス、一番働いてみたいと思った施設で現在働くことができました。



医療法人 梁山会
介護老人保健施設 はまゆりケアセンター
介護職員 **北田 紀幸**さん
(令和2年11月採用)

北田さんとの出会いは令和2年の5月でした。以前のお仕事を11年勤められたという経歴からその責任感の強さを感じられ、お話をさせていただくと、ご自身の将来のことを考えておられる様子でした。介護の仕事に興味を持たれたきっかけもご家族の介護とのことから、そのお気持ちのやさしさに高齢者介護のお仕事に向いておられると感じました。同行施設見学の際も気が付いたことには積極的に質問するなど、非常に前向きな就職活動でした。同行施設見学を通し、介護の仕事の理解を深め、応募・採用となりました。

仕事の内容は？

諸先輩の方々に「指導をいただきながら食事、入浴、排せつなど、利用者様の生活のサポートをしています。」

日々心掛けていることは？

利用者様への声掛け、コミュニケーションを大切に、利用者様の笑顔で気持ちよく過ごしていただけるよう日々、心を込めて支援に努めています。

今後の目標を教えてください

職員の皆様にご指導をいただきながら少しずつ経験を積み上げ、介護についての勉強をさせていただきながら資格の取得、介護技術の向上に努め、利用者様、ご家族様、職員の方々に信頼されるような介護職員を目指し、日々の業務に取り組んでいます。

担当キャリア支援員よりメッセージ

沿岸釜石エリア担当 **山口 睦夫**

取材時は、お忙しいところ早くお話をいただきました。お会いした時にお話を聞きながら、半年の勤務経験を経て慣れない仕事ながらも一生懸命に働いているであろう姿に、これまでの北田さんの頑張りが見て取れ、相談対応に関わったものとして、大変うれしくなりました。また、笑顔でお話をされている姿に安心しました。

今後の目標である資格取得や更なる活躍を心から応援をさせていただきます。

北田さん！頑張ってください!!



施設からのコメント



師長代行
澤口 祐子さん

北田さんについて

北田さんは以前、別の仕事をしていた時から高齢者介護に興味があったとのこと、令和2年11月に入職されました。入職前に施設見学した時から疑問に思うことは質問するなど、仕事に対する姿勢とまじめな性格がうかがえました。現在は入所フロアで交代勤務をしており、覚えることも多く大変ですが、介護福祉士の資格取得のため日々努力しています。とても大切な「戦力」の一人です。

施設としても今後ともサポートを続け、北田さんには長く働いていただきたいと思っています。

担当キャリア支援員よりメッセージ

県北エリア担当 **城内 公子**

結婚、旦那さんの転勤、子育てと以前介護員として働いていたところは環境が変わりましたが、介護職への熱意は持ち続けておられました。施設見学も、その場で働いていたような自然な親しみを感ぜさせる雰囲気をお持ちでした。子育てと仕事の両立が目標であることを見学時に相談をして、配属先や保育園の慣らし保育期間を考慮してもらい採用に至りました。エルダーの中村さんの言葉で「おひさまにとって、なくてはならない存在です」が採用になってからの仕事への姿勢が目に見えます。

今後も、子育てと両立して介護の仕事が続けられる、家族の転勤があっても正職員採用の可能性があると未来ある採用が増えることを期待したいです。



施設について

「特定非営利活動法人ファミリースポーツおひさま」は、ファミリースポーツおひさま(デイサービス)を平成16年5月に開所しました。平成23年4月には認知症対応型共同生活介護「グループホームひだまり」、小規模多機能型居宅介護「小規模多機能ホームひだまり」を開設し、現在は3施設の運営と一人暮らしの高齢者の方や自宅での食事の準備が難しい方の支援として「こめれ配食サービス」、また、集団保育やベビーシッター、お稽古送迎サポート等の「おひさまキッズサポート」と地域のニーズにお応えできるよう活動しています。「心」を理念に利用者様のお一人ひとりの元気を引き出し、幸せを感じていただけるよう支援させていただいています。また、職員のライフステージに合わせ勤務形態を選択できるよう職場環境の整備に努めています。

施設からのコメント

三浦さんについて

三浦さんは、昨年の4月にご家族の転勤で久慈市に来て、令和2年10月からおひさまで働き始めました。前職でも介護福祉士として働いていたということもあり、利用者様に対して丁寧な言葉遣いと関わり方をしていると感じました。

分からないことがあると何でも聞いてくれて、業務を着々と覚えてくれました。何事にも真摯に向き合い、利用者様の安全を第一に考え支援をしている姿は、こちらも大変勉強になります。また、明るく親しみやすい性格で、利用者様からすぐ顔と名前を覚えてもらい、利用者様も三浦さんと楽しく会話をされており、おひさまにとって、なくてはならない存在です。

新しい環境での子育てと職場復帰は大変なこと多いと思いますが、持ち前の明るさでこれからも楽しく頑張ってください。



特定非営利活動法人ファミリースポーツおひさま
通所介護事業所
ファミリースポーツおひさま
介護福祉士 **三浦 友菜**さん
(令和2年10月採用)

子育てと仕事の両立を目標に就職活動を始めました。数か所の施設見学をして自分の目でしっかりと確かめながら応募先を絞り込みました。写真からも伝わるように、人柄の良さから見学先からお声がけいただくことも多く、採用までスムーズに進みました。



エルダー **中村 愛弓**さん
(写真：左から2番目)



岩手県ホームヘルパー協議会

会員募集中

～一緒に活動しませんか～

県内でホームヘルパーの仕事に従事している方なら、どなたでも入会できます。

岩手県ホームヘルパー協議会は、県内に勤務するホームヘルパーで組織されている団体です。現在、ホームヘルパーを取り巻く状況が刻々と変化の中で、利用者のニーズに応えられる知識・技術の習得を目的とした研修会の開催、サービスに関する最新情報の提供等を行っています。

入会特典

- 本協議会が主催する研修会に、会員価格かつ優先的に参加できます。
- 電子メール等を通じて、業務に必要な最新情報を提供します。
- 長年ホームヘルパーとして勤務してきた会員を年1回表彰します。
- 全国ホームヘルパー協議会発行の機関紙をお届けします。



年会費

<岩手県> 1人 4,000円
<全 国> 1人 1,500円(同一事業所2人目からは500円)

入会方法

入会申込書に必要事項を記入の上、当協議会までお申込みください。
なお、入会すると全国ホームヘルパー協議会にも自動的に入会となります。

<今年度の研修会について>

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、集合型での研修会を開催することが難しい状況が続いています。今年度第1回の研修会は、会員からの要望が最も多かった動画配信によりテーマは、「新型コロナウイルス感染症対策」で開催しました。

第2回の研修会は、10月7日(木)にふれあいランド岩手にて、集合型で開催する予定です。

詳細が決まり次第、県内の訪問介護事業所に対し、案内をお送りします。

お
問
合
せ
先

岩手県ホームヘルパー協議会事務局

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳8地割1番3 ふれあいランド岩手2階 福祉人材研修部内
TEL: 019-639-8075 FAX: 019-637-9612

福祉のお仕事

FUKUSHI-JOB SEARCH



求人・求職情報総合サイト「福祉のお仕事」では、インターネットを介して事業所から求人申請ができます。詳しくは、下記までお問合せください。

福祉の求人・求職は岩手県福祉人材センターへ
社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
岩手県福祉人材センター

岩手県盛岡市三本柳8地割1番3 ふれあいランド岩手2F
TEL.019-637-4522 FAX.019-637-9612
E-Mail fukushijinzei-1@iwate-shakyo.or.jp



携帯サイト
は
こちらから

